

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイアネーラ		
○保護者評価実施期間	8年 2月 1日		8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	8年 2月 15日		8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	おでかけの機会が多く、社会性を学ぶことができる。	・土曜日や長期休み、平日の早帰りを利用して様々な施設や公園におでかけし、ルールやマナー、職員の話や施設の方の話聞くことなど社会性を学ぶ機会を提供する。 ・子どもたちの主張を大切に活動や行き先を提供している。	新しいおでかけ先を検討していく。
2	職員同士で情報共有をしている。	毎日の朝礼で当日の活動や前日の子どもの様子などを共有し、全員の職員に周知して支援をしている。	引き続き情報共有を密に行っていく。
3	子どもの気持ちに寄り添った支援、子どもの意見を反映した活動を行っている。	・子どもの意見が反映できるように子ども同士で話し合う場面を設け、お互いを尊重し合って活動が行えるように支援している。 ・選択肢を設けて自分の意見を持つことができるようにしている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別対応が必要な児童がいる場合に人員不足を感じる。	個別対応が必要な児童への職員の配置。	個別対応が必要な児童への対応が可能な配置や活動内容を考える。
2	地域交流が減ってきている。	児童館などに行く機会が減っている。	今後児童館にや地域イベントに参加する機会を増やしたい。
3	支援スペースが狭い	・人数が多い日は特に活動時に狭く感じてしまうことがある。 ・支援室の構造上どうしても死角になってしまうところが多い。	死角になってしまふところは職員の配置を考えて、目が行き届くようにする。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	放課後デイアネーラ				公表日	8年 3月 26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		活動状況によって場所をわけている。室内でできない活動は近くの公園などの地域資源を活用。	集団活動で人数が多いと狭く感じる。活動内容によっては工夫が必要。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		<input type="radio"/>		4月から新しい職員が入社予定。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		<input type="radio"/>	エレベーターは完備。環境構成には留意している。	建物の構造上難しいため、今後も職員の目が行き届くようにし、安全・安心への配慮に努めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		トラブルがあった時に落ち着くことができるようクールダウンできる部屋を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		職員で定期的にミーティングを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			今年度の評価表の結果を周知し、業務改善に繋げていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		毎日朝礼を行い、日々情報の共有を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		一般社団法人 障害児成長支援協会に所属し、月に2,3回の研修を受けている。また新入社員に必要な研修を実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		原案作成後に支援会議を行い、アセスメント内容を共有し、どのような支援を行っていくかを話し合っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		移行支援が必要な子には情報提供を行い、見学や実習などを実施している。また地域支援では地域のイベントへ参加するなど地域資源の活用を支援内容に設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		ミーティングで日々の活動、職員会議で土曜日や長期休みの活動を話し合って立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		食育・地域のイベントなど時期に合わせたお出かけ先の立案、こどもたちの成長に合わせて必要な活動をバランスよく行えるよう努めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		集団活動が苦手な子もいるため少しずつ個別活動から集団活動へ繋げていけるようにしている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日の朝礼で共有。正社員以外の職員にも共有できるようにホワイトボード、ノートに連絡事項を記入し、連携が取れるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援の振り返り、連絡事項を書類・HUGに記載、話し合い、共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		HUGに記載。気になったことは別紙に記録し、改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもがしたい活動を考え、実行できるような時間や日々の活動で選択肢をつくり、個々で選ぶことができるような場面を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療機関、教育機関との連携を行っている。	必要であればその他の機関とも連携をしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者を通して情報の共有を行っている。また学校への送迎時の受け渡しの際に必要な事項があれば連絡を行っている。緊急時は学校と直接連絡をとることにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談支援の方を通して連携を行い、必要な情報を共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			移行した事例なし。移行予定の児童がいるため今後必要とされた場合は情報を提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			今後必要であれば機会を設けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		コロナ禍は控えていたが、地域の公園やイベント時に交流を図っている。	今後さらに地域活動を増やしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			今後は参加できるように検討していく。
保護者への説明	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や記録（HUG）、動画などでこどもの状況を日々お伝えしている。共通理解を持って支援していけるように連携を心掛けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者会の際に親子で参加できる機会を設け、情報共有が行えるようにしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や電話の相談が多く、必要であれば助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会を開催している。7年度は7年9月23日に開催し、保護者の方向士の交流の場を設けた。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった際は職員間で共有し、迅速に対応している。	委員会で報告しているが、こどもや保護者への周知は不十分のため、今後苦情があった場合には結果を周知できるようにしたい。

等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的に活動内容やおでかけ場所をまとめたお便りを発行、SNSで活動の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもは意思の疎通が取りやすいように視覚的な支援などその子どもに合わせた支援を行っている。保護者には送迎時やHUG、LINEなど様々な手段で情報伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			事業所の規模が小さいため難しいが、今後は検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し、感染症、緊急時を想定した訓練を実施している。訓練の内容についてお便りやSNSで発信し、周知している。契約時にマニュアルを保護者に閲覧してもらうようにする。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、訓練や研修を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認。また服薬等に変更がないかアセスメント時に確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			基本事業所で摂取することはないがお出かけ時には場所の配慮が今後必要。医師の指示書がある場合は保護者に提示してもらう。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			家族にさらに安全確保に関する情報の周知ができるような取り組みを増やしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		朝礼で前日の情報を共有。ヒヤリハットの報告書に記載し、周知している。	再発防止に向けた方策の検討をもう少し会議等で増やしていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職員全員が研修を行い、虐待防止について考える機会をつくっている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		計画作成時に子どもと保護者には十分に説明し、計画に記載している。やむを得ず身体拘束を行う場合の同意書を記入してもらっている。		